

②千代田地区かわまちづくり事業

受賞機関 国土交通省 中国地方整備局 福山河川国道事務所
福山市

キーワード かわまちづくり事業、福山市営競馬場跡地整備事業との連携、都市・地域再生等利用区域指定

全建賞審査委員会の評価ポイント

旧競馬場跡地における総合体育館の再整備と連携し、河川空間を一体的に活用できるかわまち広場を整備するとともに、官民連携プラットフォームにおいて多様な主体が参画する運営体制を構築し、かわまち広場及び総合体育館の利用者数の大幅な増加等、事業効果を着実に発現させた点が評価された。

1. はじめに

千代田地区かわまちづくり事業は、広島県福山市の旧市営競馬場跡地における総合体育館の再整備に併せ、隣接する一級河川芦田川において、一体的な広場整備に取り組んだものである。令和2年3月20日の供用開始以降、両施設の利用者数は年々増加し、現在は年間約50万人が訪れるスポーツ・レクリエーションの拠点として、地域の活性化に大きく貢献している。

2. 事業の概要

広大な河川敷を活用した「芦田川緑地かわまち広場」の設計に当たっては、PI（パブリック・インボルブメント）手法により、積極的に市民の意見を取り入れた。芦田川の自然景観を生かしたスケートボードパーク（以下「タカオスケートパーク」という。）、バーベキューテラス、芝生広場や自転車歩行者用通路等は、いずれも市民のアイデアを形にしたものである。広場は、隣接する総合体育館の2階デッキと人道橋でつながっており、利用者が両施設を自由に行き来できる構造となっている。

ソフト面では、都市・地域再生等利用区域の指定に併せて、地域住民、河川利用団体、広場管理者による利用調整の場として「官民連携プラットフォーム」を立ち上げ、多様な主体が柔軟に広場を利用できる仕組みを設けている。



芦田川緑地かわまち広場（空撮）

3. 事業の成果

東京2020オリンピックを契機にスケートボードへの関心が高まり、市内外から多くの若者が集まるようになった。現在、タカオスケートパークの利用登録者数は1,800人を超える。休日には早朝からウォーキングやサイクリングを楽しむ市民の姿も多く見られ、バーベキューテラスでは家族や友人と余暇を楽しむ光景が広がる。芝生広場ではマルシェ、ドッグラン、音楽フェスやトライアスロン大会等、年間を通じて多彩なイベントが行われており、地域のにぎわいの拠点として定着している。



タカオスケートパーク



バーベキューテラス



芝生広場（マルシェの様子）

4. おわりに

これらの取組の背景には、市民有志が立ち上げた「芦活部」の存在がある。芦活部は、福山の歴史・文化と自然の魅力を生かし、地方への人材回帰を促すことを目的に平成24年に設立された任意団体で、芦田川の保全・活用に向けた勉強会、清掃活動や大人が楽しめる運動会等、市民参加型の活動を継続的に行っている。こうした地道な活動が多く市民の共感呼び、芦田川を守り、育て、生かしていこうという機運が醸成され、今回のかわまちづくりに結びついている。今後も官民が一体となって取組を継続し、地域の活性化につなげていく。

賛助会員 ㈱荒谷建設コンサルタント、㈱鴻池組、復建調査設計㈱